



シリーズ「元気が一番！」

衝撃!! マスホと学力の関係

校長 笠井 猛雄

11月の全校朝会で子どもたちに次の問題を出しました。

ある小学校のAさんとBさんのお話です。
 Aさんは家庭学習を毎日2時間以上しています。
 Bさんは家庭学習をほとんどしていません。
 ある日、算数のテストがありました。
 Bさんは、60点でした。
 Aさんの点数は、何点だったと思いますか。

A



家庭学習2時間以上
【?点】

B



家庭学習30分未満
【60点】

ほとんどの子が60点より高い点数を予想しました。
 Bさんよりも低いという子もいましたが、理由がはっきりしません。
 Bさんよりも家庭学習の時間が長いAさんの方が、テストの点数が高いのが普通です。
 しかし、結果は衝撃的です。

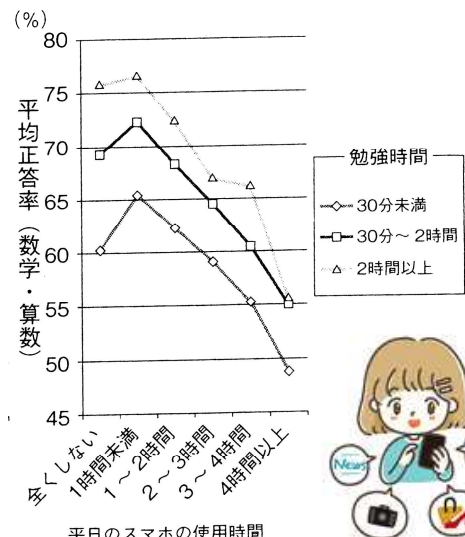
川島隆太監修 横田晋務著『2時間の学習効果が消える! やってはいけない脳の習慣』(青春出版社)から紹介します。

右のグラフをご覧ください。仙台市の小学校5年生から中学校3年生、約7万人に対する7年間に渡る調査結果です。

勉強時間(家庭学習の時間)が「30分未満」でスマホを「全くしない」場合の正答率は60%です。これがBさんです。一方、勉強時間が「2時間以上」でスマホの使用が「4時間以上」の場合の正答率は55%です。これがAさんです。

家庭学習を2時間以上もするAさんが、家でほとんど勉強をしないBさんよりも成績が悪いという衝撃的な結果です。

Aさんのように、たとえ2時間以上勉強していても、4時間以上スマホを使っていると、せっかくやった学習内容が消えてなくなってしまうようです。



スマホの使用時間と成績の関係

最近の脳科学の研究によって、スマホやゲーム機の長時間使用は、子どもの脳の発達に悪影響を与えている可能性があることが明らかになっています。

行谷小学校では、先日のアンケート調査で、約79%の子どもたちがスマホなどの情報通信機器を利用していることが分かりました。ゲーム機器の利用率は約87%です。

(アンケートにご協力いただきありがとうございました。調査結果の詳細については後日お知らせします。)

何となくだるい、眠い、やる気が出ない、授業に集中できないという原因が、スマホやゲーム機の長時間使用であるとしたら、事態は深刻です。

スマホやゲームによって、子どもたちの元気が失われるのを防ぐ必要があります。

ネット依存症やゲーム障害等から子どもたちを守ることができるのは、私たちだけです。

家庭と学校の連携をより一層深めて、スマホやゲーム機の利用の在り方や対策について、一緒に考えていきたいと思えます。

ネット依存症…オンラインゲームやSNSなどのやり過ぎを自分でコントロールできない状態。

ゲーム障害…ゲームをする時間などを自分でコントロールできず、他の関心事や日常の活動よりもゲームを選ぶほど優先度が高い状態。今年6月にWHOが疾病として認定。